

民間検定試験が活用されるために

平成27年11月4日(水)14:00～16:00(開場13:30)

全国検定振興機構では、検定業界の現状を見据えて、民間検定試験の「質」と「信頼性」の向上を目指し、書く民間検定団体の抱える問題や課題に提言をしてきました。研修を通じて、良質のテスト・検定試験の開発について体系的に学ぶ機会を提供してまいります。

14:00 開会 主催挨拶 吉田博彦(理事長)

14:05 当機構の活動について

14:15 第1部 大学入試選抜の資料として活用されるために
自己評価と、第三者評価のすすめ

パネラー

文部科学省 生涯学習政策局 生涯学習推進課
民間教育事業振興室長 助川隆氏

Profile

平成12年、旧文部省(現・文部科学省)に入省。私学部私学助成課専門官、OECD(経済協力開発機構)教育局、初等中等教育局特別支援教育課課長補佐、島根県教育庁特別支援教育課長、科学技術・学術政策局人材政策課課長補佐などを経て、平成27年7月より現職。生涯学習推進課では、検定試験の質の保証をはじめとした民間教育事業の振興や中央教育審議会生涯学習分科会学習成果活用部会などの生涯学習の推進施策を担当。

NPO法人全国検定振興機構 理事長 吉田博彦

Profile

1975年早稲田大学卒。1996年まで横浜にて学習塾の経営に当たり、99年、教育分野で最初にNPOとして経済企画庁(当時)の認証を受け全国組織のNPO法人教育支援協会代表理事に就任。民間からの教育改革を提唱し、文部科学省や教育委員会との協力によって、全国でさまざまな教育事業を起こし、地域教育力の育成を行う。2015年に当機構代表理事に就任。英語教育をはじめとする教育改革を指導している。

15:15 第2部 日本・世界のテストの現状
試験とテストの歴史選抜と測定/PBTとCBT/テスト学の展開と心理学、統計学、情報科学からの貢献/欧米と日本のテスト関連のオーガニゼーションとそれらの役割/日本の検定試験のこれから

テストの一形態としての日本のこれからの検定試験制度について考察を行うために、テスト技術の更なる進化を保障すべくおこなわれる欧米や日本における学会あるいはそのほかのオーガニゼーションの役割や活動を紹介する。

東洋で行われてきた選抜を目的とした試験と、測定を目的として発展してきたテストの歴史を展望。現代のテスト技術を支える科学のひとつとしてのテスト学について紹介し、コンピューターを用いたテスト(CBT)を従来のペーパーテスト(PBT)と比較して、その発展におけるテスト学とその関連科学の心理学、統計学、そして情報科学の貢献について検討する。

講師

東北大学 名誉教授 村木英治氏

Profile



1983年シカゴ大学教育学部の測定、評価と統計解析プログラムにおいて博士号を取得。主な研究分野は計量心理学、教育測定に使われる技法の開発で、計量心理学では多変量解析や項目応答理論(IRT)に関連した論文、教育測定の分野では国立教育測定(NAEP)についての論文を数多く発表。その他、コンピューター版テスト分野の論文の発表を行う。また、IRTの応用に必要なコンピュータープログラムを開発し、そのいくつかは教育アセスメントではスタンダードなソフトウェアとして使用されている。2015年度からは、東北大学名誉教授に就任。世界の様々な検定試験についての知見も広い。